

【第17回年次大会 研究発表 要旨】

日本語会話に見られるフィラー使用の男女差

葛欣燕

1. 研究背景

これまで、言語とジェンダーの関係についての研究では、男性はより直接的で、情報伝達を重視する話し方をする一方、女性はより間接的で、対人関係を重んじる話し方を選択していると言われている。Lakoff (1975) は、女言葉にはぼかし表現、ためらい表現、付加疑問文などがよく使われるという傾向があることから、女言葉が男言葉より間接的かつ丁寧であると指摘した。本研究では、自然会話に頻繁に現れる「あの」「ええ」「なんか」「まあ」などの無意味語の使用にはこのような男女差があるかどうかを検証した。近年、これらの無意味語はフィラーとして扱われている。山根 (2002)、小出 (2009) を参照しながら、本研究では、フィラーを以下のように定義する。フィラーとは、「多くは感動詞、指示詞、副詞に由来する、命題内容が希薄であり、意味的には発話全体に影響を及ぼさず、構造的にも統語的に制限されない表現」である。

2. 先行研究及び研究目的

従来の研究では、男女差を「地位の差」「文化差」「役割の差」から捉えている。Lakoff (1975) は、男女が異なった言葉遣いをするのは女性が従属的社会地位に属するためであると指摘している。Tannen (1990) は男女差を文化の視点から捉える。つまり、女性は相手との関係というメタメッセージを重要だとみなすのに対し、男性は他人の知らない情報を知っていることを重視している、と述べている。また井出 (2006) は、女性が男性より丁寧な言語表現を使用するのは地位の差ではなく、役割の差によると主張した。

本研究では、インタビュー番組(『徹子の部屋』)と20代大学生の雑談のデータを対象とし、フォーマルな場面とインフォーマルな場面に分け、「フィラー使用」の男女差について量的分析及び質的分析を行う。まず、男女による各フィラーの使用回数を算出する。次に、山根 (2002) のフィラー機能に対する分類を参照しながら、マクロ的に「情報処理能力表出機能」「発話命題調整機能」「対人関係調整機能」に分け、データから具体的な事例を抽出し、ミクロ的に各下位項目の役割について詳細に分析する。さらに、各機能の下位項目における男性と女性のフィラー使用の割合を算出する。最後に、「フィラー使用」に男女差が存在するかどうかについて考察を行う。

3. 研究結果

フォーマルな場面では、男性のゲストはフィラーにより、発話権を司会者徹子に譲渡することが多い。また、不同意を表明する際に、相手の気持ちを考慮するために発話を和らげたり、相手に共感を示し、または自分の心的態度を表し、相手を自分側に引き込むことができるように共通理解を作り上げ、談話を滑らかに進行させるような工夫をしている。一方、女性のゲストは、自分のこと或いは家庭のことについて言及する際に、フィラーによってためらいを表していることが多い。本研究の結果が先行研究の結論と異なっている要因としては、場面の特殊性があるのではないかと考えられる。第一に、インタビュー番組の会話が普通の会話の性質と異なるのは、前者には会話参与者以外に、観客がいることである。第二に、司会者黒柳徹子の年齢、社会地位、

言葉遣いの丁寧さから考えると、上下関係をより重視する男性のゲストは彼女により丁寧な話し方をする、と推測できる。

インフォーマルな場面では、男性は聞き手あるいは第三者の情報に言及する際に、フィラーの付け加えにより、情報の不明確さを示したり、自分のプライバシーについて語りたくない時は、フィラーの使用により躊躇していることを相手に察知させたりする。これに対し、女性は「で」などによって、発話権を維持することがよく見られる。しかし、フィラーの「対人関係調整機能」の割合では、男性のほうが女性より上回っている。これは、近年若い女性が「男性っぽい言葉」を使用し、若い男性が「女性っぽい言葉」を使う傾向があるということに原因があると思われる。

以上の結果から、言葉遣いは、ジェンダーとの関係以外にも、場面、年齢、上下関係、社会地位などと密接にかかわっているため、男性の言葉遣いが支配的、直接的、情報伝達を重視する一方、女性の言葉遣いが従属的、間接的、対人関係を重視するという主張は必ずしも妥当ではないと考えられる。

[参考文献]

井出祥子 (2006) 『わきまへの語用論』 大修館書店

小出慶一 (2009) 「現代日本語の意味・用法の広がりに関する記述的研究——多機能化、フィラー、フィラー化——」 『日本アジア研究』 6 pp.1-37

山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くろしお出版

Lakoff R.T. (1975) *Language and Women's Place*, New York, Harper&Row

Tannen, Deborah (1990) *You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation*. Harper

(かつ きんえん・九州大学大学院博士後期課程)